三重縣の玉瀧村につき一言せん。彼處に於ては、學校、道路、橋梁、水利、河川、堤防等の設備完からざるなく、信用組合、產米檢査、共同倉庫の制ありて、產業大に振興し、民情惇朴、三十年間未だ一人の租稅滯納者を出さず、青年會は村長自ら主宰する處に係り、夜學會を設け、講習會を開き、婦人會、處女會も備はりて婦人巡回圖書館の設あり、軍人共濟會あり、振武會あり、奬學金の設定あり、日掛貯金の制あり、上下互に相倚り相扶けて、闔村の輯睦なる事恰も一村是れ一家の如し。是れ一に協同の精神が各人の間に流露せる結果に外ならず。

大東京と雖も、協同の力一つによりては、如何やうにも、善美の都市と爲すを得べし。

既に協同の精神を解したらば、從つて公共心といふことが、理解

公共心

せらるべきこと、自然の道理なり。御身等は全市を構成する一分子なれば、他のものは吾が物なり、人の事は我が事なりとして、その行動は、常に全市民の迷惑とならざらんことに心掛けざる可らず。かくてこそ公園に樹木折る可らずの立札なくもよく、河岸に塵芥捨つ可らずの注意なくとも不可ならず、暴風に際し自家の前に植ゑられたる道路樹の倒れしを、手入れするの考も起るべく、路上に捨てられたる危險物を取り去らんとの心も湧くべし。

斯くの如くんば、何ぞ自治團體の振興せざる理あらんや。東京市の善美とならざる筈もなからん。

## 第七章　雄大進取の氣象

東京市民に望むべき第六の要件は雄大進取の氣象なり。

日本は島國なるの故か、凡てのもの、外國の夫に比ぶれば、甚しく矮小なるを覺ゆ。山も河も人も動物も皆小し。而かも自然と人と、形の上に於ける大小は論ずるに足らずとすべきも、人の心までが小く、氣象までが、こせ〳〵して、島國根性を脱せざるは殘念なり。

島國根性

例へば日常の生活に見るも、日本人は多く引籠り性にて、外出する事尠く、我が家を出づるも、人の家にあり、玉突屋にあり、芝居小屋にあること多し。外人は一般に野外の出遊を好み、水の涯野の末、自然の見え聞ゆる處に無限の樂を享けんとす。英人の如き、何人と雖も、短艇を操縱し、車馬を驅り得ざるなしと、マックスオーレルはいへり。此の氣象こそ、スウエンヘヂンをして、世界の秘密國たる西藏の事情を發かしめ、ベアリーをして北極を、シヤックルトンをして南極を探檢せしめ、古くはリビングストンをして阿弗利加を跋渉せしめたるなれ。而して此氣象こそ、アングロサキソン人種をして、一冊のバイブルと一箇のラッケットを手にし、天涯地角、嬉々として到る處をその故郷とし、樂土とし、墳墓の地とせしめたるなれ。卽ち是れ英帝國の大を致したる所以にあらずや。

遠大なる計畫

是を各般の事業に見よ。我國人は、眼前の小利を追ふに急なるも、眼を高處に置き、遠大の計畫を立てて、將來の利益を得んとするものあらず。英人にせよ、獨人にせよ。彼等が商業に從ふや、先づ支那語なり、馬來語なり、西班牙語なり、其他必要とする外國語の研究に取り掛り、然る後、自ら、目指す處に向ふを常とするなり。彼等の工業に

從ふや、或は他國の有名なる工場に職工となりて、その長を探らんとし、或は自己の工場に試驗室を設けて、科學の精義を盡し、以て他の競爭に一歩を先んずるの優秀品を得んとす。近來米國に於ける大工場にして、大規模の試驗室又は實驗室を有せざるなき趨勢にあるは、その氣局の宏大にして、進取的精神の旺盛なる證左とすべし。

是を市政に見んか。上水にあれ、下水にあれ、何の國、何の都市に行くも、その規模の廣大なる、御身等の意表に出づべし。彼の所謂都市計畫の如きは、伯林にせよ、巴里にせよ、華盛頓にせよ、その他の小都市にせよ、何れも、殆んど舊來の形態を打破して、新たに市街の區畫を立案し、道路を案排せるなり。紐育が將來の膨脹を豫想して、その

寸前の利と百年の大計

郊外に施設せる道路其他の整齊せるを見るもの、誰か彼等の思想計畫の雄大なるを感ぜざるべき。

我國人には、一般に雄大進取の氣象乏しく、其の目ざす處常に一局部に限られ、何事も規模狹小、退嬰保守的にして、躊躇逡巡決せざる事多し。大國民として、また大市民として恥づべき事なりと謂はざるべけんや。若し御身等にして、此の譏を解かんとならば、勿論細心の注意を忘る可らざるも、宜しく氣宇を大にし、寸前の利を追うて、百年の大計を忘るる如き事あるべからず。此の國を强大ならしめ、此の國民を偉大ならしむるも、その心にあり。東京をして、世界に於ける最善最美の都市たらしめ得るも、また其の心にあり。

# 第八章　愛市心の涵養

東京市民に望むべき第七の要件は、愛市心を盛にせんこと是れなり。

何人か自己を愛せざるものあらん。自己の幸福と進歩とを祈るの心、卽ち是れ自愛心と名けらる。然れども、自愛心のみを有して、その父母、その兄弟を愛するの心なきものはあらざるべし。其の父母、その兄弟を愛するの心のみを有して、その師、その友人を愛するの心なきものはあらざるべし。斯の如く、自己を愛するの心を擴張して家族に及ぼし、師友に及ぼし、鄕黨に及ぼし、國家に及ぼす、是れ人間の尊き所以にして、その人情の窮るところ、身を捨てて、人の危急

**自愛心の擴張**



に赴き、己れを忘れて國を救はんとするの行動に出づ。而してその心の國に對して現はるるを愛國心とし、市に對して現はるるを愛市心となすなり。

**日本人と愛市心**

我が國に於ては、父母を愛し、國家を愛するの心に於ては、その發達世界に比なしと稱せられつつも、愛市心は盛ならざる感あり。是れ都市が久しく武斷政治の下に支配せられ、爲めに未だ普く市民をして都市生活の意義を悟るに至らしめざるに基因するなるべし。是に反し、歐米都市の狀態を一見するものは、市民が如何にその居住せる都市を愛するかを知らん。御身等何れの國、何れの都市に遊ぶも、市民はその都市の有せる名所を誇らんとすべく、その市政は斯く〳〵なり、道路下水の整頓せること、慈善救濟事業の見るべ

**外人の愛市心**

きものあることなどを示さんとするならん。是れ尙ほ自己の住宅、自己の居室を愛するが如きに氣付くなるべし。

茲に一言せざる可らざる事あり。市政に政黨の容喙するは、最も排すべき事にして、市の理事者と市會議員が市政を料理するは、恰も家長と主婦とが、一家に對する如くならざる可らず。而して一般の市民は家族として、家庭たる都市の繁榮を願はざるなかるべし。

都市と政黨

御身等にして此の心あらば、事毎に黨派を立てて爭はんより、東京市を我が家と心得て互に相協心戮力し、完全美麗なる首都たらしめよ。市政に對して爭ふは不可ならず、然れども相軋らず、相離れず、相容れ、相和せんことを心掛けよ。相侵さんよりは相讓らんことに努むべく、相訐かんより相忍ばんことに努むべく、相爭はんより相折れんことに努むべきなり。斯くせば己れを立つるの間、併せて人を立て、一都是れ一家、一人の如くなるを得べきか。

東京市を至善至美ならしむるの心

東京市を至善至美ならしむるも、その基は卽ち此の心にあり。御身等先づ是を會得し、次で隣人に說かば、東京の將來に光輝と幸福と來らんこと必せり。

東京市民讀本終



大正六年十二月三十日印刷
大正七年一月二日發行

東京市民讀本
定價金六拾五錢

著作者　阪谷芳郎
東京市神田區裏神保町九番地

發行兼印刷者　合資會社　冨山房
同合資會社冨山房社長
代表者　坂本嘉治馬

發兌元　東京神田（明治廿九年六月設立）合資會社　冨山房
振替口座五〇一番
電話本局　長　一〇三六番
四一三〇番
編輯局　四四八三番

著作權所有

賣捌所　全國各地著名書肆

## 東京冨山房發兌小學補習夜學讀本

**五版**

文學博士　芳賀矢一先生著

# 聖代讀本

全二冊

菊判各卷二百五十頁
定價各卷金四拾錢
郵稅　各卷金八錢

本書は教育勅語の趣旨に據り明治聖代に於ける事歴を經緯として、有名なる芳賀博士の編著せられしもの也補習讀本として夜學讀本として、子弟讀物として、學校、青年團幷に家庭の讀本として行く所可ならざるなき名篇なり

**分冊**

竹越與三郎先生著

# 人民讀本

全二冊

定價各卷金貳拾六錢
郵稅各卷金六錢

本書は立憲國民必讀の名著として、益々聲價を高むると共に補習用、夜學校用として採用せらるゝ向愈々增加し、各學校及青年團等より分冊發行希望の申込多數なるを以て、今回紙質製本に一層注意し且價額を低廉にして發賣す、眞に理想的國民教科書といふべし。

**新刊**

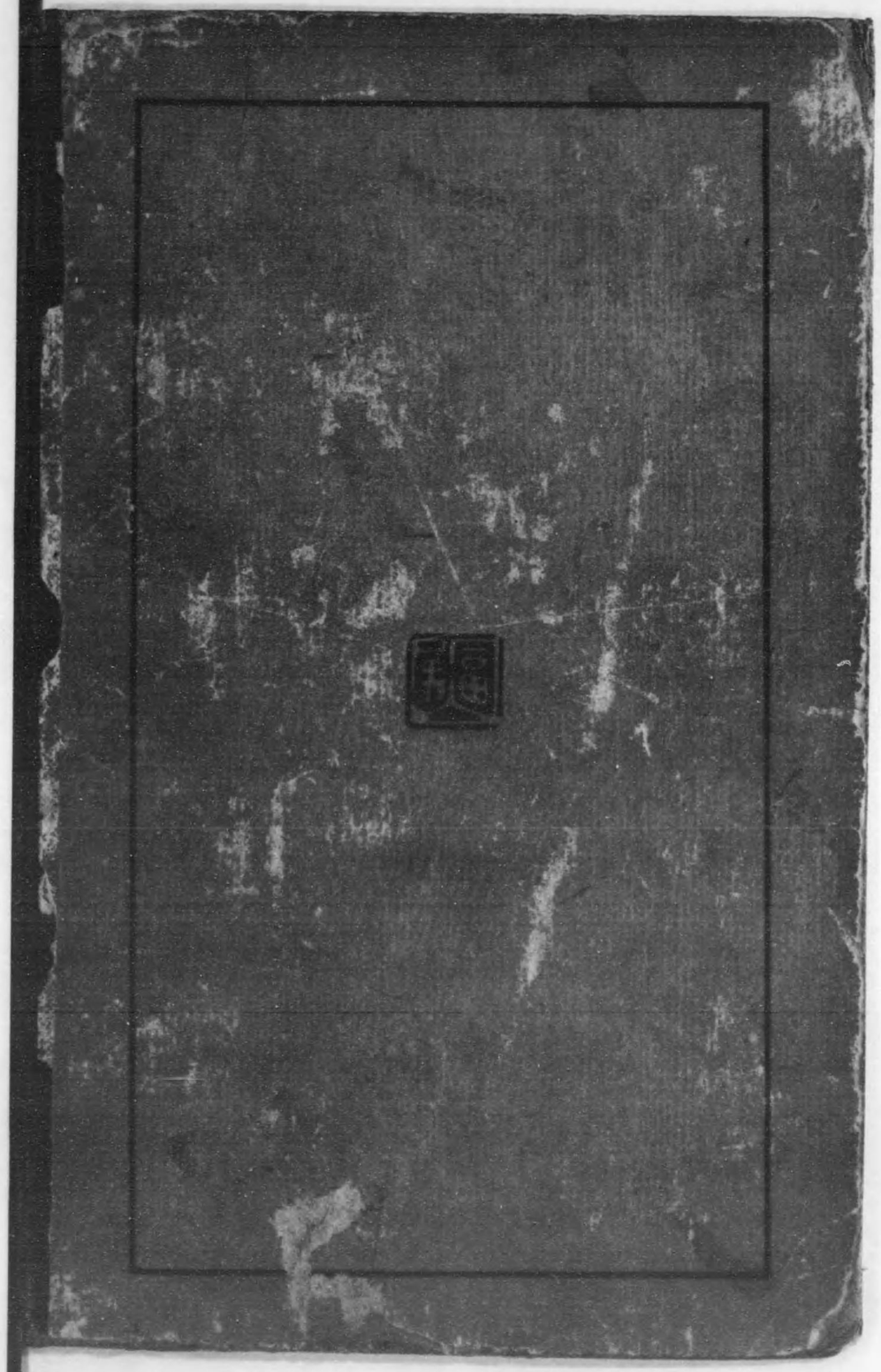
騎兵第三聯隊長　葛岡正次氏閲　文部省普通學務局員　玉井廣平先生著

# 國民軍民讀本

全

菊判二百九十頁
寫眞版顏豐富
定價金五拾五錢
郵稅金八錢

全國壯丁に軍事思想養成の目的を以て編著せられしものにして、極めて通俗的に陸海軍の要件を述べ、特に多くの參考資料及最近に於ける戰役實歴談等をも抄錄して、實際狀況を知らしめん事に力めたるもの。小學補習讀本として恰適なるは勿論青年夜學讀本として屈指の良教科書也。

322
182

終